

# 教育研究業績書

2024年10月22日

所属：教育学科

資格：准教授

氏名：村井 潤

研究分野		研究内容のキーワード		
健康・スポーツ科学		身体教育学, 体育科教育学		
学位		最終学歴		
博士（教育学）, 修士（教育学）, 学士（教育学）		広島大学大学院 教育学研究科 学習開発専攻 博士課程 修了		
教育上の能力に関する事項				
事項	年月日	概要		
<b>1 教育方法の実践例</b>				
1. 模擬授業の振り返り方法に関する取組	2015年4月～現在	模擬授業のビデオ映像を模擬授業の授業者に配布し、ふり返りに活用させる試み		
2. 模擬授業を活用した授業展開	2012年4月～現在	講義による体育科教育の理論的知識と、模擬授業を通じた体験的知識を関連付けて理解させる授業展開		
<b>2 作成した教科書、教材</b>				
1. 改訂版 初等体育科教育の研究	2019年4月	小学校体育科教育の基本的な知識について概説している。第1部では基本理論を、第2部では各領域について取り扱っている。		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>				
<b>4 その他</b>				
1. 武庫川女子大学サッカー部部长	2012年4月～現在			
職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
<b>1 資格、免許</b>				
1. 小学校教諭専修免許状	2008年3月			
2. 中学校教諭一種免許状（保健体育）	2006年3月			
3. 高等学校教諭一種免許状（保健体育）	2006年3月			
<b>2 特許等</b>				
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>				
<b>4 その他</b>				
1. 日本体育学会 浅田学術奨励賞 体育科教育学	2012年8月	日本体育学会		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 新・教育課程演習第15巻 初等生活科教育、初等音楽科教育、初等図画工作科教育、初等家庭科教育、初等体育科教育、初等総合的な学習の時間	共	2021年7月21日	協同出版株式会社	石崎和宏・中村和世編 担当執筆部分：第5章7節体育科の教材研究の視点、第5章8節体育科の教師としての資質や能力 担当執筆部分では、Q&A方式で、体育科の教材や教師としての力量形成について簡潔に説明した。
2. 子どもの学びがみえてくる体育授業研究のすゝめ	共	2020年6月	創文企画	木原成一郎・大後戸一樹・久保研二・村井潤・加登本仁編 担当執筆部分：2.2小学校教員養成における教育実習の実際pp.50-53 本書は子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現する体育授業を目指す現職教員、学生、教師教育者に向けて執筆されている。本書は3章構成であり、第1章では教師の成長に対する体育の授業研究の役割について論じ、第2章では教員養成段階の授業や実習の役割について論じ、第3章では校内研修としての体育の授業研究の具体例を示している。
3. 改訂版初等体育科教育の研究	共	2019年4月	学術図書出版社	木原成一郎・大後戸一樹・久保研二・村井潤編著 加登本仁ほか4名著 執筆部分：第1部第3章「体育科の教材づくり」pp.42-52、第2部第7章「保健」pp.179-189（担当部分単著）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
4. 体育授業を学び続ける一教師の成長物語	共	2015年4月	創文企画	本書は、第1部では体育科教育の基本理論を概観し、第2部では各領域の具体例を示している。 木原成一郎, 徳永隆治, 村井潤 編著 嘉数健吾, 久保研二ほか11名 執筆部分: 第2章2.1頼りになる先輩に出会うpp.44-48 (担当部分単著)
5. 教師として育つ 体育授業の実践的指導力を育むには	共	2010年12月	明和出版	本書は、体育授業を探求する小学校教師や、小学校教師を目指す学生を主な読者として想定し、小学校教師が体育授業を探求し、成長していくための諸要素について説明している。本書は3章構成となっており、第1章は教師の成長に関わるキーワードについて、第2章は教師の成長に関わる人々との出会いについて、第3章は教師が成長する場としての研修について説明している。 梅野圭史, 海野勇三, 木原成一郎, 日野克博, 米村耕平, 糸岡夕里, 岩田昌太郎, 加登本仁, 刈谷三郎, 久保研二, 厚東芳樹, 徳永隆治, 長田則子, 林修, 松田恵示, 村井潤, 吉永孝志 担当執筆部分: 第II部第5章5-2, pp.50-56. (担当部分単著) 担当執筆部分では、広島大学教育学部初等教育教員養成コースにおいて実施されている模擬授業の特徴を紹介している。対象コースの模擬授業の特徴は、2段階で模擬授業のふり返しを行っている点である。このふり返りの内容を分析することで、学生の学びの実態を紹介した。また、対象コースにおいて想定されている模擬授業とその後の理論の講義及び教育実習の役割分担について紹介した。
<b>2 学位論文</b>				
1. 小学校教員養成における体育科に関する科目の改善に関する事例研究－教育実習との関連に着目して－	単	2011年3月	広島大学大学院	本論文は、小学校教員養成における体育科に関する科目の在り方について、教育実習との関連を踏まえながら事例的に考察している。本論文は、事例として取り上げた体育科に関する科目群を詳細に検討しその成果を明らかにすることで、科目群の課題と改善案を導出した。この過程を明示することで「読者あるいは利用者側の一般化可能性」としての「外的妥当性」を保障しようとしている。
<b>3 学術論文</b>				
1. 質の高い体育授業のために教師が大切にしたいこと	単	2021年1月	広島大学附属小学校学校教育研究会 : 学校教育(1241) : 22-36	本稿では、運動の指導内容と子どもの運動技能の自己認識という観点から、質の高い体育の授業を実施するために必要なことを論じた。運動の指導内容として動きの目的を明確にした上で、運動の形態と運動の感覚を指導することの必要性について指摘した。また、運動ができることと運動がうまいことを区別し、子どもたちができることの価値を実感させることの必要性を指摘した。そのために、教師は子どもが運動をできたことについて、言葉のみで評価するのではなく、笑顔で喜ぶことによって評価することの必要性について指摘した。
2. 「主体的」に学ぶ体育の授業に必要なこととは何か	単	2016年10月	広島大学附属小学校学校教育研究会 : 学校教育(1190) : 14-21	本稿では、アクティブラーニングの「主体的」という側面に着目して、「主体的」に学ぶ体育の授業に必要なことを検討した。そして「主体的」に学ぶ体育の授業に必要なこととして、学習者が「学ぶ対象に『価値』を見出すこと」、学習者が「運動の価値を自分自身で感じること」、「教師が授業で取り扱う内容に価値を感じ『主体的』に学ぶ」ことの3点を挙げた。
3. 小学校教育実習の授業協議会における実習生の発言内容に関する事例研究 (査読付)	単	2015年6月	体育学研究, 60(1) : 249-265	本研究は、小学校教育実習生の集団的な学習活動に対する指導の内容及び方法を検討するための基礎的研究として、授業実習後に実施される授業協議会において実習生が発言した内容を分析し、実習生が他の実習生と共有した内容を明らかにすることを目的とした。また、授業協議会で実習生は授業を実施した立場とその授業を観察した立場から発言することとなるため、両者の発言する内容の差異を明らかにすることを目的とした。
4. 小学校における体育授業の力量形成を促す現職研修に関する研究	共	2014年3月	学校教育実践学研究, 20 : 115-124.	木原成一郎, 久保研二, 大後戸一樹, 岩田昌太郎, 徳永隆治, 林俊雄, 村井潤, 加登本仁, 嘉数 健悟 本研究では、地区研究会体育部会が主催する実技研修会を事例として、現職教師が研修会で学んだ内容を所属校でどのように広めているかを明らかにした。また、教師Aを事例として、研修会の内容が教師Aの体育の授業改善にどのような影響を与えるかを考察した。
5. 小学校教員養成における体育科関連科目	単	2013年3月	教育学研究論集, 8 : 43-48.	本研究では、私立A大学の小学校教員養成カリキュラムを事例として取り上げ、それを構成する体育科に関する科目間及び教育実習科目

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
の改善に関する事例研究－協力校実習における体育科授業実習の実施状況を視座として－				において検討すべき科目間の関連性や科目の順序性について検討した。
6. 小学校初任教師が1学期に直面する課題に関する事例研究（査読付）	共	2013年3月	初等教育カリキュラム研究, 1:47-57.	村井潤, 明石靖子, 安部悦子, 岡田真史, 藤本翔子 本研究の目的は、初任教師が1学期に直面する課題を事例的に明らかにすることである。研究の結果、初任教師は大きく分けて「上司・同僚との人間関係」「保護者対応」「組織運営」「事務」「教育」という5つの課題に直面していた。これらのうち「事務」については、1学期のうち一定の解決方法を見出していたが、「教育」にかかわる課題は試行錯誤の段階であり、1学期のうちに明確な解決方法を見出していないことが明らかになった。
7. 運動感覚の言語化とその方法	単	2013年2月	広島大学附属小学校学校教育研究会：学校教育, (1147):12-17.	本稿では、体育科の授業において運動感覚を言語化することの重要性とその具体的な方法について、「大きな前転」の指導例を用いながら説明した。
8. 体育授業における「若手教師」の思考の変化－変化を促した要因を中心に－	共	2012年03月	学校教育実践学研究, 18:141-150.	木原成一郎, 久保研二, 村井潤, 藤本翔子, 大後戸一樹 本研究では、小学校現職教員1名を事例として取り上げ、体育授業についての思考の変容をもたらす要因について検討した。その結果、管理職やメンターとのかかわりが契機となって変容がもたらされていることが事例的に示された。
9. 保健体育科教師の悩み事に関する調査研究	共	2012年03月	学校教育実践学研究, 18:151-158.	岩田昌太郎, 加登本仁, 松田泰定, 木原成一郎, 徳永隆治, 林俊雄, 久保研二, 村井潤, 嘉数健悟, 林楠, 藤本翔子 本研究は、中学校保健体育教師を対象として、体育指導を行っていく上での悩み事に関する質問紙調査を実施し、中学校保健体育教師の悩みごとの実態の把握を行った。その結果、授業に関する悩み事は低い傾向にあったが、生徒指導や公務文章に関する悩み事が高い傾向にあった。
10. 小学校教員養成における体育科関連科目の授業改善に関する事例研究－学生の「学びたいこと」に着目して－（査読付）	共	2012年03月	体育科教育学研究, 28(1):11-28.	村井潤, 木原成一郎 本研究では小学校教員養成コースで開講された体育科関連科目を対象として、各科目の受講生の体育科について「学びたいこと」の実態を明らかにするとともに、各科目で実施した模擬授業が「学びたいこと」に与える影響について事例的に明らかにした。
11. 小学校体育授業における「若手教師」の思考の変化に関する研究	共	2011年12月	広島大学大学院教育学研究紀要第一部学習開発関連領域, 60:135-142.	久保研二, 木原成一郎, 村井潤, 藤本翔子, 大後戸一樹 本研究では、小学校教師1名を事例として取り上げ、採用1年目と4年目の授業に関する思考の特徴の違いを検討した。また、検討の結果を踏まえて、教職経験に伴う「授業力量」の成長について考察を行った。
12. 小学校教師が現職研修に求める機能に関する事例研究－体育科の校外研修の参加者に対するインタビューを手がかりに－	共	2011年12月	広島大学大学院教育学研究紀要第一部学習開発関連領域, 60:73-80.	村井潤, 木原成一郎, 松田泰定, 岩田昌太郎, 久保研二, 徳永隆治, 林俊雄, 藤本翔子, 加登本仁, 林楠, 大後戸一樹 本研究は、小学校の現職教師を対象とし、小学校教師が現職研修に求める内容について明らかにするとともに、明らかにされた内容を踏まえて、校外研修に求められる機能について考察した。
13. 小学校教育実習における指導の特徴に関する研究－実習生の実態を踏まえた反省会での指導に着目して－（査読付）	共	2011年06月	体育学研究, 56:173-192.	村井潤, 木原成一郎, 大後戸一樹 本研究は小学校教育実習を対象とし、指導教員の体育科に関わる指導の実態を明らかにすることを目的とした。研究の結果、指導の観点には「授業の実態」「実習生」「子ども」「教材」「価値観」「実習生の価値観」「指導教員の価値観」という7つがあった。また、指導教員はこれらの観点を一様に指導するのではなく、実習生の課題に応じて、指導の重点を変化させていた。
14. 体育授業の悩み事に関する調査研究(その2)－悩み事の解決方法を中心として－	共	2011年03月	学校教育実践学研究, 17:169-174.	加登本仁, 松田泰定, 木原成一郎, 岩田昌太郎, 徳永隆治, 林俊雄, 村井潤, 嘉数健悟 本研究は、現職小学校教師を対象として、体育指導についての悩み事を解決する方法の現状と希望を尋ねる質問紙調査を実施した。そ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
15. 体育授業の悩み事に関する調査研究(その1)―教職経験に伴う悩み事の差異を中心として―	共	2010年03月	学校教育実践学研究, 16:85-93.	の結果、体育指導に関する悩み事を解決する方法として、現状、希望ともに、「同僚」「文献」「ホームページ」が活用されていることが明らかになった。このことから、小学校教師の体育指導の悩み事の解決には同僚教師が重要な役割を担っていることが明らかになった。 加登本仁, 松田泰定, 木原成一郎, 岩田昌太郎, 徳永隆治, 林俊雄, 村井潤, 嘉数健悟
16. 小学校教員養成における運動指導の力量形成に関する研究―逆上がりの観察内容の変化を通して―	単	2009年12月	広島大学大学院教育学研究科紀要第一部(学習開発関連領域), 58:125-133.	本研究は、現職小学校教師を対象として、各項目に5段階で回答する質問紙調査を実施し、体育指導を行っていく上での悩み事の実態の把握を行った。その結果、「子どもに合わせた教材づくりができる」などの項目は悩み程度が高いことが明らかになった。 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「初等体育科教育法Ⅱ」を対象とし、逆上がりの運動技能の違いが学生の逆上がりの映像の観察内容に与える影響について検討した。研究の結果、「後方回転の技術」は技能が高い学生には記述されない傾向にあり、技術の低い学生に記述される傾向にあった。また、「回転制御の技術」は技能が高い学生には記述される傾向にあり、技能が低い学生には記述されない傾向にあった。
17. 模擬授業を複数回実施することの効果に関する事例的研究―ソフトバレーボールを教材として―	共	2009年03月	学校教育実践学研究, 15:39-48.	村井潤, 松田泰定, 木原成一郎 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「体育科学習材講義」を対象とし、模擬授業を2回実施することの効果を検討した。研究の結果、学生は1回目の模擬授業で見出した課題を2回目の授業で改善することができたという実感を得ていたと考えられた。また、模擬授業を2回連続して計画することは、授業の連続性を意識させる効果があると考えられた。
18. 教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究(その2)―テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素―	共	2009年03月	学校教育実践学研究, 15:29-37.	木原成一郎, 村井潤, 加登本仁, 謝剛, 松下篤, 林楠, 松田泰定 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「初等体育科教育法Ⅰ」で実施した模擬授業の効果を検討した。効果の検討は、模擬授業の実施前後に模擬授業のVTRを観察させ、観察内容を比較することで行った。研究の結果、模擬授業前後で問題を指摘する記述が増加した。これは、自分達が実施した模擬授業の反省において、様々な問題に気づいたためだと考えられた。
19. 小学校教員養成における体育科目の授業改善に関する研究―後方支持回転に着目して―	共	2008年12月	広島大学大学院教育学研究科紀要第一部(学習開発関連領域) 57:97-105.	村井潤, 木原成一郎, 松田泰定 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「初等体育科教育法Ⅱ」を対象とし、後方支持回転の技術の指導が学生の後方支持回転の映像の観察内容に与える影響について検討した。研究の結果、後方支持回転を観察する観点には、指導を受けなくても観察できる観点と、指導を受けると観察できる観点、説明されても観察することが困難である観点があることが明らかになった。
20. 運動指導の力量形成を視点とした模擬授業の検討(その2)	共	2008年03月	学校教育実践学研究, 14:13-19.	松田泰定, 木原成一郎, 村井潤, 坂田行平 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「体育科学習材講義」を受講した学生が、模擬授業を計画する際に検討する内容と模擬授業の反省を通して気付く課題を把握することを目的とした。研究の結果、学生は授業計画の際に「運動課題の把握」と「運動の仕方の説明・指示」という事項を相互に関連させながら検討していることなどが明らかになった。
21. 教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究	共	2007年12月	広島大学大学院教育学研究科紀要第一部(学習開発関連領域) 56:85-91.	木原成一郎, 村井潤, 坂田行平, 松田泰定 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「初等体育科教育法Ⅰ」を受講した学生が、模擬授業の反省を通して、どのような問題点に気付いたのかを把握することを目的とした。研究の結果、「教師の活動」「授業に関する知識」「教師の心の余裕」「生徒の思い」という観点に関わる問題に気付いたことが明らかになった。
<b>その他</b>				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 体育科模擬授業における課題設定の方法	単	2023年9月1日	日本体育・スポーツ・健康学会 第	本研究では、学生の振り返り等を取捨選択し、課題を設定する方法について検討することを目的とした。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
に関する研究			73回大会	本研究では、学生の振り返り等を「優先度」と「難易度」という2つの観点で分析させ、その組み合わせ（「マトリックス」）によって課題の設定を行わせる方法を実践した。すなわち、「優先度」が高く「難易度」が低い内容を「最優先課題」、「優先度」が高く「難易度」も高い内容を「チャレンジ課題」、「優先度」が低く「難易度」も低い内容を「余力課題」、「優先度」が低く「難易度」が高い内容を「後回し課題」として設定させた。
2. 小学校体育科の模擬授業における大学教員の指導に関する事例研究	単	2017年10月	日本スポーツ教育学会 第37回学会大会	この方法（「マトリックス」）を実施した学生は、多くの振り返り等の中から次の実践で改善・模倣すべき課題を設定することができていた。 本研究は、A大学での体育科模擬授業の実践事例を取り上げ、学生が協議会で示した意見に対して、大学教員がどのような内容を指導したのかを明らかにすることを目的とした。 研究の結果、大学教員は学生の意見に対して追加の解説を行ったり、学生が検討した項目について学生とは異なる観点から解釈を行ったり、学生が検討していない項目について指導を行っていることが明らかになった。
3. 体育科模擬授業における大学教員の「問題の設定」に関する事例研究	単	2016年10月	日本スポーツ教育学会 第36回学会大会	本研究は、大学教員が、学生が実施する体育科の模擬授業に対してどのような「問題の設定」を行ったかについて事例的に把握することを目的とした。 資料の分析の結果、大学教員が設定した「問題」は最終的に11の項目に集約された。11の項目とは、「授業計画」「位置関係」「学習規律」「教師」「学習者」「運動」「教育内容」「方法」「危険な場面・状況」「教師観」「大学生としての学習に対する態度」である。これらの項目に含まれる「問題」の多様性には差があり、特に「教師」について、多様な「問題」が設定されていた。
4. 小学校体育科指導法の授業における学生の「学びたいこと」に関する事例研究：学生の進路希望に着目して	単	2013年8月	日本体育学会第64回大会	本研究の目的は、小学校教員免許取得予定者が学習意欲に対する進路希望の影響を明らかにすることである。研究の方法は、体育関連科目で「学びたいこと」について7件法で回答させ、回答結果の因子分析を行った。また、因子を構成する項目の平均点を「意欲得点」とし、小学校希望群と幼稚園・保育所希望群の「意欲得点」の差の検定を行った。その結果、「個別指導・授業工夫」「授業の計画・実施」「体育の目的・意義」の3因子が抽出された。また、群間の差の検定の結果、「授業の計画・実施」について1%水準で有意差が認められた。
5. 小学校教育実習における指導教員の指導内容に関する事例研究：授業協議会における実習生の発言との関連から	単	2012年11月	日本スポーツ教育学会第32回学会大会	本研究では、小学校教育実習に参加した実習生が、体育科の授業実習後に行われる授業協議会において発言する内容を分析し、その特徴を考察した。分析の結果、授業協議会における実習生の発言には、「授業の印象」「指導案」「授業の目標」「授業の道具」「場の設定」「教師」「運動・教材」「子ども」「実習生として」「教師として」「当たり前のことの問い直し」という11観点があつた。
6. 体育授業の悩み事に関する調査研究—現職教師からみた悩み事の因子構造—	共	2010年10月	日本スポーツ教育学会第30回記念国際大会	加登本仁, 松田泰定, 木原成一郎, 岩田昌太郎, 徳永隆治, 林俊雄, 村井潤, 嘉数健悟 本研究は、小学校教師が体育授業を行う際に感じる悩み事について、その因子構造を明らかにすることを目的とした。本研究の結果、小学校教師が体育授業を行う際に感じる悩み事は、運動を教えることに関する「運動技能」と、一人ひとりの子供に対して適切な指導を行うことに関する「子ども把握」、子ども同士の協力関係や意欲的学習を引き出す「情意」という構造を持っていた。
7. 教員養成カリキュラムの改善に関する研究—小学校教員養成コースの体育科関連科目を対象として—	共	2010年09月	日本体育学会第61回大会	村井潤, 木原成一郎, 松田泰定 本研究では体育科に関する科目を改善していくための基礎として、学生が体育科に関する科目で学びたいことを把握することを目的とした。体育科に関する科目において何を学びたいかを尋ねる質問紙を作成し、実習前後の学生に実施したところ、実習前において学びたいと考える学生が少なかった「学習規律」などの項目に対して実習後では学びたいと考える程度が高まることが明らかになった。
8. 教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究	共	2009年10月	スポーツ教育学研究第28回大会	木原成一郎, 村井潤, 加登本仁, 謝娟, 松下篤, 林楠, 松田泰定 本研究は、広島大学教育学部の「初等体育科教育法Ⅰ」を受講し、模擬授業を実施した学生に体育科の模擬授業を撮影したビデオ映像

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
ーテスト映像を視聴した学生の気づきー				を観察させ、学生の記述を分析することで、体育授業を観察する際に気づく内容を明らかにすることを目的とした。その結果、学生たちは模擬授業の実施前後で、「授業の実態」と「授業の計画」という共通する内容について授業を観察していた。
9. 体育授業の悩み事に関する調査研究ー教職経験に伴う差異についてー	共	2009年08月	日本体育学会第60回記念大会	加登本仁, 岩田昌太郎, 嘉数健悟, 木原成一郎, 徳永隆治, 林俊雄, 松田泰定, 村井潤 本研究は、異なる教職経験を持つ者が、体育授業を行う上で感じる悩み事を明らかにすることにより、各教職経験段階の教師が必要としている援助を把握するための基礎資料を得ることを目的とした。そのために使用する質問紙を先行研究の知見を用いて作成し、その目的と調査項目を提案した。
10. 小学校教育実習における体育科の指導に関する事例研究ー授業実施後の反省会における指導教員の指導に着目してー	共	2009年08月	日本体育学会第60回記念大会	村井潤, 木原成一郎, 大後戸一樹 本研究は小学校教育実習を対象とし、実習中に行われる指導教員の指導の実態を把握することを目的とした。研究の結果、指導の観点には「授業の実態」「実習生」「子ども」「教材」「価値観」「実習生の価値観」「指導教員の価値観」という7つがあった。7つの観点は学年によって指導される割合が異なり、1年生配属の実習生には「実習生の価値観」などが指導される傾向にあった。
11. 初等教員養成課程における体育科目の授業改善に関する研究	共	2008年09月	日本体育学会第59回大会	村井潤, 木原成一郎 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「初等体育科教育法Ⅱ」を対象とし、後方支持回転の技術の指導が学生の後方支持回転の映像の観察内容に与える影響について検討した。研究の結果、学生は後方支持回転を行うためには大きな「後ろ振り上げ」は必要なく、「上半身の倒し」などの動作が必要とされるということを学んだと考えられた。
12. 器械運動の指導能力に関する基礎的研究ー「自己観察」と「他者観察」に着目してー	共	2007年11月	スポーツ教育学研究第27回大会	村井潤, 木原成一郎 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「初等体育科教育法Ⅱ」を対象とし、授業の前後において学生が逆上がり映像を観察する視点の変容を検討した。研究の結果、事後の調査では、運動のポイントとして足と体幹部についての記述が増加した。また、できない映像の学生に対する指導言では足についての記述が増加し、手と体幹部についての記述が減少した。
13. 教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究	共	2007年09月	日本体育学会第58回大会	村井潤, 木原成一郎, 松田泰定 本研究は広島大学初等教育教員養成コースで開講された「初等体育科教育法Ⅰ」を受講した学生が、実施した模擬授業の反省を行う際に、どのような観点から反省したのかを把握することを目的とした。研究の結果、前転の授業の反省では「教師の声かけ」と「生徒のかかわりあい」という観点について、側転の授業の反省では「個人差に応じた指導法」などの観点について反省していることが明らかになった。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 校内研修プログラムとしての体育授業研究の開発と海外への普及	共	2016年4月1日 2020年3月31日まで	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)	分担 本研究は、授業研究における省察を通して体育授業に関する教師の知識と教材観や子ども観等の信念を形成する校内研修プログラムを開発し、海外に紹介することを目的として実施される研究である。
2. 指導教員の「省察」に着目した体育科模擬授業の指導の方法に関する研究	単	2015年4月1日 2018年3月31日まで	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (B)	代表 本研究は、小学校教員養成教育における体育科の模擬授業の指導方法を検討するために、指導教員の指導の実態を事例的に取り上げ、その内容と学生の実態の関係性について検討するものである。
3. 体育教師の継続的な力量形成を保障する現職教育プログラムの運用と改善	共	2012年4月1日 2015年3月31日まで	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)	分担 本研究は、先行研究において開発された、体育教師の継続的な力量形成を保障する現職教育プログラムを運用し、その内容の改善を行うことを目的として実施された研究である。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項